

「高浜原発3・4号機の再稼働を認めない意見書」採択を求める請願に対する意見陳述

いらんざ原発！坂井市民の会 事務局長 野波栄一郎

千葉大大学院の特別教授・野波健蔵は私の弟ですが、「ドローン」と呼ばれる無人ヘリコプターの開発で有名です。弟の開発したヘリコプターが、経済産業省に採用され、福島の重大事故を起こした原発の中に、線量計とカメラを装着して入り、写真を撮ってくることになっています。放射能が高くて、人間が中に入れず、中がどうなっているか今なお分からないからです。弟のヘリは、幅1メートルの空間があれば、どこへでも入って行きます。

その弟の言うには、「爆発した福島原発に、防護服を着て、何度も行った。原発は絶対ダメや」と。私が、「なぜ絶対ダメと言うのか」と問い返すと、「人間が開発した機械は、事故にあったり、故障すれば、止まり、原因を突き止めて修繕すれば、また間に合う。ところが原発は、事故から4年たっても、今なお収束せず、原因も不明。しかも高濃度の放射能が出続けて、近づくことさえできない。こんなものを、安全だと言って、何機も造ったことが間違っている」と言います。

事故から丸4年、福島は今どうなっているのでしょうか。先日、福井のフェニックスプラザで開かれた3・1メモリアルアクションで、福島から来られた伊藤達也さんのお話を紹介します。

第一に、放射能のため誰も住めなくなった面積は、福井県の四分の一の広さです。

第二に、故郷を追われ、人生を根底から狂わされ、避難を余儀なくされた人は、今なお11万9千人です。その多くが家族一緒に住めず、展望が全く持てません。その70%が、心身の不調を訴えています。事故を苦しめた自殺が60人、仮設での孤独死が34人です。アルコール依存症が増えていきます。

第三に、避難先での震災関連死が1862人で、津波による死亡1603人を越えました。

第四に、被害はすべての産業に及んでいますが、特に漁業、農業が深刻です。医療、福祉、教育分野にも被害が続いています。にもかかわらず、補償を1年後に打ち切るというので、県民から「我々を見殺しにするのか」という怒りの声が上がっています。全機廃炉を求める運動は、「建白書運動」になろうとしています。

第五に、除染などの放射性廃棄物を30年保管する「中間貯蔵施設」の建設が進みだした二つの町などは、もう帰れないという人々が激増、復旧、復興は遠のくばかりです。

第六に、福島県には、避難地域以外に195万人が住んでおり、依然として自然放射線量を超える放射線にさらされており、多くの人々が不安とストレスを抱えて暮らしています。

更に、地域社会が事故原発からの距離で分断され、放射線量で分断され、賠償で分断されました。しかもこの大事故の責任をだれもとらないことへの怒り、不満が沈殿しています。こうしたもとの、川内原発や高浜原発の再稼働は許しがたいことです。以上が伊藤達也さんのお話紹介です。

若狭湾は、14機の原発が密集する世界一の原発銀座です。阪神淡路大震災以来、地球は激動期に入ったと言われます。若狭湾に、想定外の大震災・大津波が襲ったらどうなるでしょう。若狭湾の原発群が同時多発過酷事故に陥る。そうなったら取り返しつきません。特にもんじゅはプルトニウムが燃料です。プルトニウムは自然界にない人間が作った元素で、耳かきいっぱい10万人が癌

になる猛毒です。もんじゅが重大事故を起こしたら、日本の半分が人の住めない土地になってしまうと言われます。こんな恐ろしい原発は、再稼働せず、廃炉にする、これ以外に選択肢はないのでしょうか。

そもそも原発は人類と共存できません。

そのわけは、第一に、原発はトイレなきマンションと言われます。原発が稼働すれば、毎日放射性廃棄物＝原発のゴミがたまります。高浜原発1基が1日稼働すると広島型原爆3発分の死の灰がたまります。1年で千発分にもなります。

このゴミは、崩壊熱という高い熱を出し続け、かつ高放射能で、何年もプールで冷やし続けなければなりません。その後も高放射能を隔離する特性ドラム缶に詰めて、何万年も厳重保管しなければなりません。核のゴミ処理方法を人類は知らず、放射能で地球を汚染してはなりません。

第二に、安全な原発などありません。災害だけでなく人為的にも事故は起こります。スリーマイル島やチェルノブイリ事故は人為的の事故でした。いったん過酷事故が起これば、人類はこれを制御できません。福島事故は、今なお収束もせず、原因も不明です。高濃度の汚染水が溜まり続け、海洋汚染を続けています。チェルノブイリ事故のように、最悪の水蒸気爆発が起これば、原子炉そのものが吹っ飛び、高濃度の放射性物質が大気中に飛散、広範囲の地域が人の住めない地域になってしまいます。

ドイツの脱原発の取り組みから何を学ぶか、「日本の科学者」昨年3月号の牧野広義阪南大学教授の論文をご紹介します。

ドイツのメルケル首相は物理学者だそうです。彼女自身、福島事故に衝撃を受け、ハイテク国の日本でさえ、原発の重大事故を免れないのだから、もう原発依存は止めなければならないと決意しました。2011年3月11日の事故直後、4月4日に、「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」を設置したと発表しました。この倫理委員会は、政治家・哲学者・社会学者・経済学者・政治学者・自然科学者・宗教者・経営者・労働組合役員等、各分野の第一人者17名で構成されました。翌5月30日に倫理委員会報告書が出され、6月6日、メルケル内閣は、2022年12月31日までに、ドイツの原発を完全に廃止すると決定。6月30日には、ドイツ連邦議会でこの原子力法改正案が可決されました。実に迅速な決定です。この取り組みから学ぶこととして、

第一に、ドイツでも原発について20年この方、無条件拒否と段階的廃止の主に二つの議論が抗争を繰り返してきました。この対立を乗り越えて、10年後の脱原発で社会的合意を取り付けました。そのキーワードは、「持続可能性」と「未来への責任」という二つの理念です。

日本では、憲法13条の「生命、自由、幸福追求の権利」、25条の「健康で文化的な生活の権利」、97条の「基本的人権は現在および将来の国民の永久の権利」、これらは脱原発の理念に通ずるものです。しかし、憲法理念を生かそうという国民運動と、この憲法を改定して軍事大国をめざそうという勢力との対立が激しくなっています。

第二に、「未来のための共同事業」の提起です。政治・経済・地方自治・市民運動が共にエネルギー転換のために協力するという事です。

日本はどうか。原発の「安全神話」が崩壊した今なお、政治家・電力会社・ゼネコン・大銀行・官

僚らが「原発ムラ」に群がり、原発に固執しています。しかし、脱原発をめざす市民運動は、毎週の金曜行動だけでなく、オール福島運動のように広がっています。

第三に、ドイツで脱原発の合意が形成されたのは、20年以上にわたる自然エネルギー拡大の成果があったからです。エネルギー転換の現実的説得力を持って語られたからです。

日本でも、全ての原発が止まって1年と半年、電力は不足していません。原発に依存しなくてもやっつけられることを実証しました。そこには、急速な自然エネルギーの普及、国民的節電の実現があります。日本は、自然エネルギー資源大国ですから、この開発普及に一層の取り組みが求められます。

最後に、請願書を読み上げて終わりとします。

<請願の趣旨>

原子力規制委員会は、2月12日、高浜原発3・4号機の安全対策が新規制基準に適合したとする「審査書」を決定しました。

政府は、「新規制基準は、世界一厳しい基準であり、この基準に適合した原発は再稼働させる」、としています。しかし、ヨーロッパでは、過酷事故に備え、溶融した燃料の受け皿や原子炉の二重構造を義務付けています。わが国の基準には、このような規制がありません。また、欧米では、過酷事故の際の住民避難計画が、基準に盛り込まれています。わが国の基準には、住民避難計画はなく、地元自治体任せとなっています。アメリカでは、避難計画が実現不可能として、原発が廃炉になったケースがあります。鹿児島川内原発も、高浜原発も、避難計画については、現実に可能か問題になっています。これで果たして「世界一厳しい基準」と言えるでしょうか。

原子力規制委員会の田中俊一委員長は、「規制基準に適合していても、全く事故が起こらない『ゼロリスク』を意味するものではない」と繰り返し述べており、「新規制基準適合」が、安全を保障しているわけではありません。これをもって、再稼働に突き進むことは許されません。

福島原発事故から間もなく4年になりますが、今なお事故の原因究明もされず、収束もしていません。大量の汚染水や放射性物質が環境を汚染し続けています。今なお12万人余の人々が故郷を追われ避難生活を余儀なくされています。

昨年5月の福井地裁判決は、大飯原発3・4号機について、福島のような事故が絶対起こらないという保証はなく、いったん事故が起これば、被害は250km圏に及ぶとして、「原子炉を運転してはならない」と判決しました。この判決は、そのまま高浜原発にも当てはまります。そればかりか、高浜原発3号機は、ウランとプルトニウム混合のMOX燃料を使ったプルサーマルです。プルトニウムは猛毒であり、この原発の過酷事故による被害は甚大なものとなります。

以上のことから、高浜原発3・4号機は再稼働すべきでなく、以下の請願をいたします。

記

福井県及び国に対して、「高浜原発3・4号機の再稼働を認めないことを求める意見書」を提出されるよう求めます。

以上、教育総務常任委員会の議員のみなさんの賢明な判断で、ぜひとも「高浜原発3・4号機の再稼働を認めない意見書」の採択をお願いします。